



ITS世界会議東京2013の開催概要

時期: 2013年10月14日(月)～18日(金)

場所: 東京国際フォーラム(10月14日) 開会式
東京ビッグサイト(10月15日～18日)
セッション(会議)、展示会、閉会式 等

一般公開日: 10月17日、18日の2日間

開催テーマ: 『Open ITS to the Next』

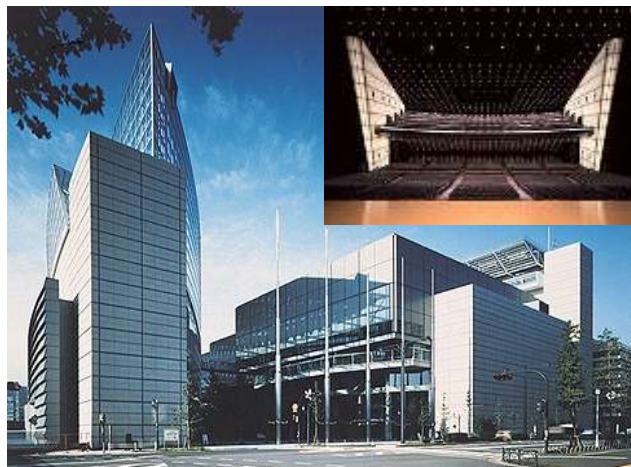
会議登録者数: 4,000人 参加者数: 8,000人以上

参加国数: 60ヶ国以上 出展コマ数: 700小間

論文: 1,000件 セッション数: 250



<ロゴマーク>



東京国際フォーラム



東京ビッグサイト

<2013年6月20日 日本組織委員会 事務局>

ITS世界会議とは

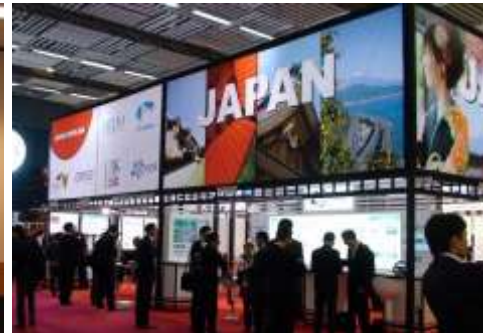
- ・世界の3地域を代表するITS団体が毎年共同で持回りで開催
- ・産官学が参加する唯一のITS国際会議
- ・技術開発、政策、市場動向等、幅広い視点で議論と情報交換を実施
- ・移動交通分野における諸問題を解決し、ビジネスチャンスを生み出す
- ・専門家会議(セッション)、展示会、テクニカルショーケース等を実施
- ・毎年、約50カ国、3,000~6,000人が参加(通常のカンファレンス規模)



開会式



セッション



展示会



ショーケース

2013年の世界会議は、東京で開催

世界3地域のITS組織とITS世界会議

ヨーロッパ



EC、各国政府、民間等から
約100団体が加盟

アジア・太平洋



関係省庁、研究者、民間等から
約260団体が加盟

米州



政府、学会、民間等から
約350団体が加盟

BRUSSELS

TOKYO

WASHINGTON, D.C.

ITS世界会議：世界の3地域を代表するITS団体が毎年共同で持回りで開催



ITS世界会議の開催規模

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
開催地	第1回 パリ	第2回 横浜	第3回 オランダ	第4回 ベルリン	第5回 ソウル	第6回 トロント	第7回 トリノ	第8回 シドニー	第9回 シカゴ	第10回 マドリッド
参加国	11	38	37	43	50	58	53	46	42	75
参加者 (登録者)	2,200	3,400	5,000	3,000	3,564	4,661	5,707 (3,850)	3,818 (2,121)	4,536 (2,181)	6,270 (3,000)
出展数	74	49	150	189	85	152	197	166	239	233
論文数	483	469	797	594	768	540	611	500	512	727
年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
開催地	第11回 名古屋	第12回 サンフランシスコ	第13回 ロンドン	第14回 北京	第15回 ニューヨーク	第16回 ストックホルム	第17回 釜山	第18回 オランダ	第19回 ウーン (速報値)	第20回 東京 (目標値)
参加国	53	55	75	52	66	64	84	59	91	60以上
参加者 (登録者)	61,394 (5,794)	7,130 (2560)	7,262 (3,067)	40,000 (2,300)	5,501 (3,298)	8,512 (2,801)	38,700 (4,317)	6,510	10,000	8,000以上 (4,000)
出展数	250	163	243	163	250	254	213	210	304	700小間
論文数	763	710	899	851	1,021	811	1,037	1,037	871	1,000

ITS世界会議東京2013の目的と開催理念

ITS世界会議東京2013の目的

①ITSによる現代の交通社会のイノベーション促進

ITSの活用分野を、交通問題解決だけでなく社会システム全体の課題解決に拡大することにより現代の交通社会にイノベーションを起こし、市民生活に活力を生み出すとともに我が国及び世界の経済発展に寄与する。

②世界のITSのグローバルな進展促進

日米欧3極とアジア・太平洋(AP)諸国等における発展途上国との相互の連携を核大・強化することにより、世界のITSの円滑な進展に道筋をつけ、ITSのグローバルな進展に寄与する。

ITS世界会議東京2013の開催理念

①環境・エネルギー・交通問題に対し**具体的な解決策**を提示する
世界会議

②豊かな市民生活や活発な経済活動が営まれている**未来社会**を
提示する世界会議

③ITSの**グローバルな進展**を促進する世界会議

④ITSメガシティの**将来像**を提示する世界会議

会議コンセプトと4つの軸

ITS世界会議東京2013の会議コンセプト

“Open ITS to the Next”

ITSは次世代のモビリティを形作るべく新たなステージに入ります。従来の取り組みである「交通事故や渋滞などの課題の解決」に加えて、「電気自動車などの出現によるエネルギー・マネジメント分野との連携」、「ネットワーク化社会における新たなビジネス機会の創出」、「東日本大震災の教訓を活かしたレジリエントな交通社会の実現」、の3つの領域へその裾野を広げつつあります。

Openをキーワードにした 会議コンセプトの4つの軸

- Open platforms
- Open connectivity
- Open opportunities
- Open collaboration



プログラムコンセプト

会議コンセプトに基づいて会議では、7つの項目に焦点を当てる

1.Safety and traffic management

交通安全・渋滞の解消へのさらなる取り組み

2.Next generation mobility and sustainability

持続可能な交通社会の実現に向けた次世代モビリティへの取り組みとエネルギーマネジメントとの融合

3.Efficient transport systems in mega cities/regions

メガシティにおける人とモノの移動の効率化

4.Intermodal and multimodal systems for people and goods

人の移動・モノの輸送におけるインターモーダル・マルチモーダル

5.Personalized mobility services

モバイル機器等を用いたモビリティのための個人向けサービス

6.Resilient transport systems for emergency situations

レジリエントな交通社会システムの構築

7.Institutional issues and international harmonization

グローバル連携や共通の課題解決に向けた取り組み

セッションスケジュール

国際フォーラムで開会式、ビッグサイトで約250セッション、閉会式は基調講演3と併せて実施

Executive Sessions (12)

Atrium Events (4)

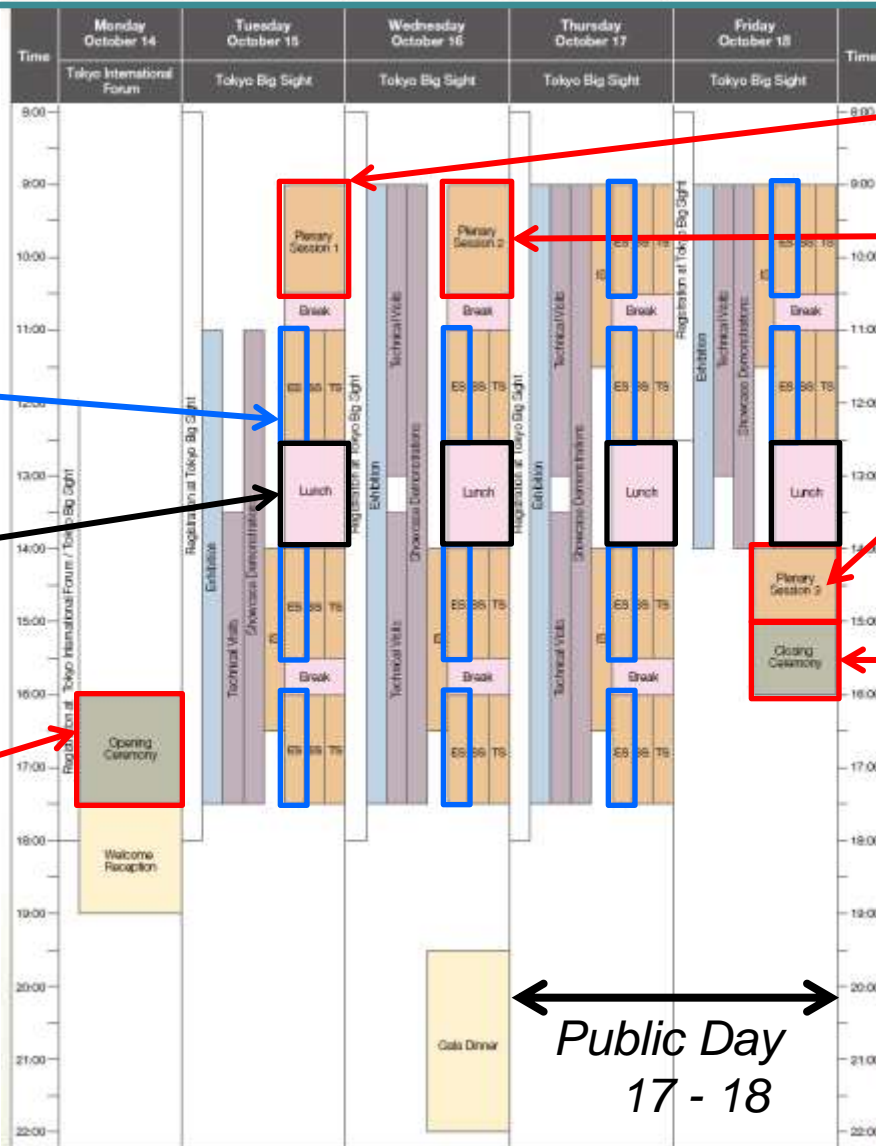
Opening Ceremony

Plenary Session 1

Plenary Session 2

Plenary Session 3

Closing Ceremony



Public Day
17 - 18

式典全体の統一コンセプトを「東京MATSURI」とし企画

イベント	日時	会場	参加者数(想定)	主な内容
開会式	10月14日(月) 16:00～17:30	東京国際フォーラム ホールA	2,500名	主催者挨拶 アトラクション (よさこい、和太鼓) 等
ウェルカムレセプション	10月14日(月) 17:30～19:00	東京国際フォーラム ホールB7&B5	1,000名以上	飲食物による接遇 参加者間の歓談・交流 等
展示会公式リボンカット (展示会オープニング)	10月15日(火) 10:45～11:00	東京ビッグサイト アトリウム、西1・2ホール	—	主催者挨拶 リボンカット 等
GALAディナー	10月16日(水) 19:30～22:00	椿山荘(オリオン)	1,000名	主催者挨拶 アトラクション 等
閉会式 & 基調講演3	10月18日(金) 14:00～16:00	東京ビッグサイト 国際会議場	1,000名	主催者挨拶 Passing the Globe 等

Plenary Sessions テーマ

	PL1	PL2	PL3
日時	10/15. 9:00-10:30	10/16. 9:00-10:30	10/18. 14:00-15:00
セッションタイトル	Open ITS to the Next : Aims and issues in moving towards the next stage	Improving Quality of Mobility in Mega-cities/regions	Beyond <i>ITS</i> : from conventional approaches to four aspects of “open”
登壇者	政府系の方々	都市、地域の交通関係者	産業界、学界の方々
セッションの構想、 Key words など	<p>会議テーマOpen ITS to the Nextに関連して、“国、地域の次のビジョン・政策・施策”を述べてもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活性化 ・地球温暖化 <p>従来の安全、渋滞解消ばかりでなく、環境への配慮を含めた、広くモビリティの質を上げるための政策論を展開する</p>	<p>メガシティ・メガリージョンならではの公共交通、都市交通のあり方を議論する(ライトレール、バス高速輸送システム、自動車等による交通最適化など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートコミュニティ ・スマートモビリティ ・防災 <p>それぞれの都市が抱える問題、解決方法を共有し議論を深めることで、それぞれの解決策の糸口を探すことを期待する</p>	<p>将来を見据え、ITSが発展していく実感が持てるような、志が膨らむような講演を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT, EVとエネルギーの融合 ・ビッグデータから広がるオープンな世界(サイバーフィジカルシステム) <p>革新的な技術のさらに向こうにある地平線の技術をも俯瞰し、どのような世界が出現するかに思いを寄せながら、東京会議の総括とする</p>
	各地域、ホストから15分ずつスピーチ + パネルディスカッション	各地域、ホストから15分ずつスピーチ + パネルディスカッション	各地域、ホストから15分ずつスピーチ + パネルディスカッション
関連する会議コンセプト	Platforms	Platforms, Collaboration, Connectivity	Opportunities, Connectivity

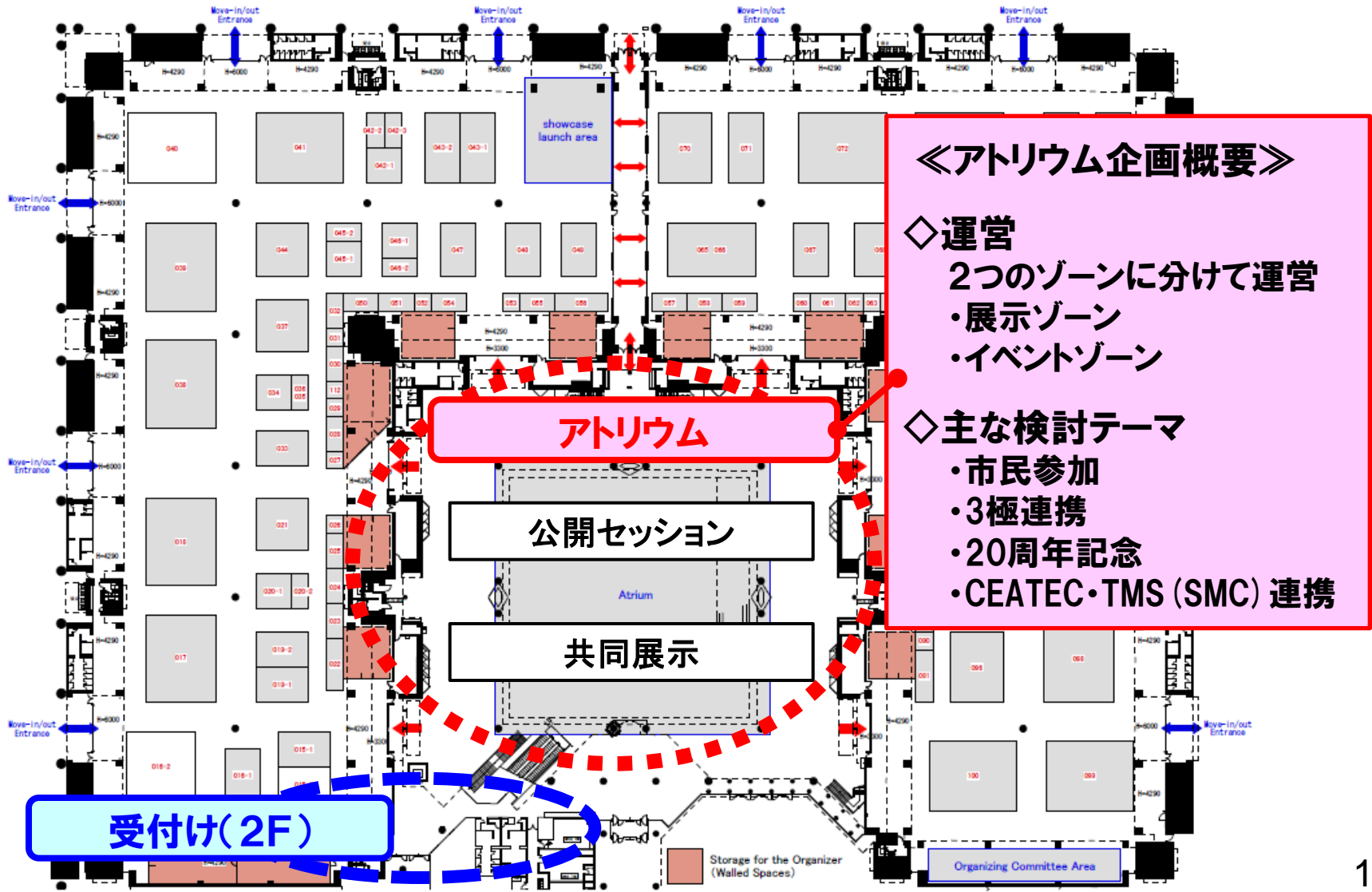
Executive Sessions



	タイトル/概要	企画	追加登壇者
1	Autonomous Vehicles -- The Path to Implementation (自動運転 - 実用化への道のり) 自律自動運転技術の開発が進み、実用化も近いのではないかと考えられるようになった。自律運転支援、協調型運転支援、自動運転の技術と考え方、法的枠組みなど多面的に実用化への道を探る。	AM	EU
2	Connected Vehicles - Preparing for Deployment (協調型システムの実用化に向けて) 2013年は協調型システムの実用化のカギを握る年である。官民連携した実証実験が進み、導入の政策や民間の製品化の意思決定が行われる。世界からこの分野のリーダーが集まり実用化に向けての動きを議論する。	AM	EU
3	Deployment of cooperative safety and energy efficient services (協調型安全運転支援およびエネルギー効率向上) 協調型システムは安全やエネルギー効率向上に効果的であることに加えて新たなサービス市場をもたらすことが期待される。そのための国際標準化や市場創出について議論する。	EU	AP
4	International cooperation - Acceleration for ITS development and deployment (ITSの開発及び実用化における国際連携) 欧米並の三極は協調型運転支援システムについて国際調和を図る活動を進めてきた。その最新状況と今後の加速展開について議論する。	AP	AM
5	Cooperative strategies for urban traffic management (都市の協調型交通マネジメント戦略) 情報通信技術が浸透し、出発前、移動中にも最新の情報を活用して移動手段やルートを選択するようになってきた。このような進展に呼応した交通管理やインフラの有効活用に資する事業者と連携した政策について議論する。	AP	EU
6	ITS Policy and Vision (ITSの政策とビジョン) スマートシティにおけるエネルギーと交通システムの融合、ビッグデータのオープンプラットフォーム構築と活用など新たなシステムの実用化には、明確な政策的意思が必要である。世界のリーダーがITSの導入を促進する政策論を展開する。	EU	AP
7	Emerging business opportunities for GNSS technology (衛星測位技術を活用したビジネスチャンス) ナビゲーションシステムの中核技術として衛星測位が使われてきたが、各国が新たな測位システムを次々に立ち上げ、応用分野も広がってきた。政策、新たなビジネスなどの観点で将来展望について議論する。	AP	AM
8	Progressing safety for all users through ITS (世界におけるITSを活用した交通安全の取り組み) 車両安全技術や協調型システムは交通事故対策に効果的であるが、二輪車、自転車、歩行者の事故削減は大きな課題として残っている。ITS技術を活用した交通安全対策について議論する。	EU	AM
9	International Spectrum Allocation Policies (各国の周波数割り当て政策) 周波数割り当ては、安全運転支援などの公共性と通信事業者の事業展開戦略のはざまでも慎重に行われる。電波政策の専門家が事例を共有し、バランスのとれた周波数割り当てのあり方について議論する。	AM	AP
10	ITS enabling next generation mobility (次世代モビリティを支えるITS) 都市交通に導入が進む、新たなタイプの車両やオンデマンド・サービス、カーシェアリングなどの多様な利用形態をつなぐITSシステムについて議論する。	EU	AP
11	The New Normal: the integration of ITS with other technology sectors (ITSと他の技術分野との融合) プローブ情報収集、ビッグデータ解析、データ活用オープンプラットフォームなど、新たな交通情報アーキテクチャーとその展開について議論する。	AM	EU
12	Benefits and Returns on Investment for Real World ITS Applications (ITS導入による交通課題解決の効果、投資対効果) ITSの導入には、その効果を明確化し投資対効果を提示することが必須である。効果評価に基づく最適な導入計画策定に何が必要か議論する。	AP	AM

展示場及びアトリウムレイアウト (案)

- ビッグサイト西館(1階 屋内20,000m²、700小間)にて実施



《アトリウム企画概要》

◇運営

2つのゾーンに分けて運営

- ・展示ゾーン
- ・イベントゾーン

◇主な検討テーマ

- ・市民参加
- ・3極連携
- ・20周年記念
- ・CEATEC・TMS (SMC) 連携

アトリウム企画検討（案）

検討中の概略検討案（市民の方にも楽しんで頂けるイベントを企画）

◇イベント検討（案）

お昼休みを使ったイベント

1. 世界のITSリーダーによるトークショー（3極連携）
 - ・協調型運転支援と自動運転の将来、ITSビッグデータ に関して
2. CEATEC、東京モーターショー連携トーク/シンポ（3イベント連携）
 - ・高度運転支援等共通テーマを設定してシンポ企画
3. 市民向けトーク/対談

お昼休み以外のイベント

1. 遠隔地デモの様様をライブで実況放映
2. 東京世界会議各プログラムの様様を映像放映
3. ITS推進している自治体の取組み紹介

◇展示検討（案）

1. ITSの歩みと世界会議20周年展示（3極連携展示）
2. 年表形式のパネル展示以外の表現方法（タブレット、ナビとのリンク等）

ショーケース

- 未来のITS(実験段階のものやこれから実用化を目指すもの)を見学、体験していただく
- 会場として、公道利用タイプと世界会議会場施設(屋外、屋上、屋内)を利用したタイプを予定
- 併せて、3極共同のデモンストレーションとして青海地区の会場を利用したものも予定

タイプ		候補案件
会場外	公道利用	次世代協調型システム (ITS Green Safety)
		情報提供高度化(次世代VICS、震災時提供、クラウド連携、ITSスポット補完)、高度運転支援、信号制御
会場施設	屋外	自動運転、安全運転支援、災害時ネットワーク
	屋上	駐車支援(スマートパーキング&チャージング)
	屋内	歩行者ナビゲーション
青海地区会場 (3極共同デモ)		自動運転、高度運転支援

テクニカルビジット(会期内での有料視察)候補一覧

ツアー名	概要
警視庁交通管制センターと東京都防災センター	<ul style="list-style-type: none"> ・警視庁交通管制センター:スムーズな交通流を実現するために7,000基以上の交通信号機を制御。大規模災害のような非常事態に備える機能がある。 ・東京都防災センター:大規模地震等の発生時には、都知事を長とする災害対策本部が設置され、自衛隊、警察、消防など防災機関との情報連絡や、災害対応全般のオペレーションを行う拠点。
「ゆりかもめ」中央指令室と公共交通乗車体験	<p>新交通システムを含むスムーズで便利な公共交通機関の乗車体験。 1枚のICカードで、3路線を乗り継いで確実に時間通りに移動できることを体験。 (「ゆりかもめ」中央指令室の見学やビデオ視聴も含む)</p>
臨海トンネル監視センターと大井コンテナターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海トンネル監視センター:4本のトンネルと2つの橋を総合監視。 ・大井コンテナターミナル:効率的出し入れを可能とする革新的なコンテナ専用立体格納庫を保有。この世界初のシステムがどのようにヤード利用の効率化と環境改善をしたかについて見学する。また、「東京ゲートブリッジ」を車内から見学する。
先進の交通管制センターとVICS	<p>日本で最大規模の警視庁交通管制センターと最新鋭の千葉県警交通管制センターを見学する。移動中のバス内では、現在運用中のVICSと開発中の次世代VICSを紹介する。これらを通じて、交通管制、信号制御、交通情報、プローブ情報等を活用した情報提供など、先進的な交通管理システムの理解を深める。</p>
横浜みなと未来V2I ～交通管制センターの見学と路車協調システムの体験～	<p>神奈川県警交通管制センターを見学し、最新の交通信号の制御と路車協調システムを体験する。プロファイル信号制御導入路線をバス乗車にて体験する。 また、歩行者等支援情報通信システム(PICS)と路車間通信利用安全運転支援システム(DSSS)と世界初の路車協調信号制御システム(V2I)を体験する。</p>
横浜スマートモビリティ	<p>横浜市における次世代交通ビジョンを自治体とモビリティ企業等のコラボレーションにより発信する。YOKOHAMA Mobility “Project ZERO”(YMPZ)、横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)のフィールドで、先進的環境づくりを推進する「みなとみらい21」エリアで、次世代交通ビジョンの一場面を体験する。 (低炭素の超小型モビリティ/モビリティ&エネルギーマネジメント&ICT)</p>
柏ITSスマートシティ	<p>「柏ITSスマートシティ」構想によるまちづくりとモビリティ活用について、東京大学柏キャンパスと柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)を訪問し、キャパシタEV、オンデマンド交通、パーソナルモビリティ、複合現実感(MR)による交通状況の可視化のような様々な革新的なITSテクノロジーを見学する。</p>
Hondaスマートホームシステムとソーラー水素ステーション	<p>埼玉県さいたま市及び埼玉県庁に設置されたHondaスマートホームシステムやソーラー水素ステーションを訪問し、電気自動車や燃料電池電気自動車と連携したHondaの先進的な環境エネルギー技術を体験する。</p>
高速道路交通管制センターと保守運用設備	<p>日本で最大の高速道路会社の1つであるネクスコ中日本が、先進的な川崎交通管制センター、海老名SA、最新のITS技術を活用した道路維持管理車両を紹介する。海老名SAには巨大ショッピングモール等の楽しめる多くの設備あり、そこで駐車場誘導、情報ターミナル、非接触EV給電などを体験する。</p>

ポストコングレスツアー(会期後の有料視察)候補一覧

ツアー名	概要
あいち／豊田ITSサムライツアー	無線通信を使った安全運転支援システム(DSSS)、最新のITS技術と低炭素社会の融合を実現した「とよたエコフルタウン」、ITS技術を使って中部地域の道路情報を収集・提供する「統合道路情報管理センター」を見学する。さらに、「トヨタ会館ミュージアム」の見学、磁気浮上式リニアモーターカー「リニモ」の試乗、サムライの歴史に触れることのできる徳川美術館・名古屋城を見学する。
長崎EV&ITS ～エコアイランド五島へ～	「長崎EV&ITS(エビッツ)」は140あまりの島から成る五島地域で行われている、EV等とITSが連動した「未来型ドライブ観光システム」の構築や、EVとエネルギーシステムが連携した「エコアイランド」の実現を目指すプロジェクト。参加者は「遣唐使ふるさと館」で急速充電をしたり、EVやITSスポットを用いて「未来型ドライブ観光」を体験すると共に、世界遺産候補の1つである五島地域の自然の素晴らしさや遣唐使・キリスト教等にまつわる史跡も見学する。
新東名高速道路ツアー ～次世代高速道路～	新東名高速道路のドライブを通して最新のITS技術と観光を体験する。テクニカルビジット「高速道路交通管制センターと保守運用設備」と同じ川崎交通管制センターを訪問し、新富士ICにて最新の遠隔対応料金設備、駿河湾沼津SAにて維持管理車両デモ、駐車場誘導、非接触EV給電などを体験する。
釜石市のオンデマンド交通システム	東日本大震災の甚大な被害から再建中の釜石市のオンデマンド交通システムを見学する。被災地交通支援に対するITS技術の活用事例として、復興による街の発展に伴って変化する住民の移動ニーズ(仮設住宅、仮設店舗から復興住宅、常設商業地)に対応可能なオンデマンド交通システムを紹介する。あわせて世界遺産「平泉」も見学する。
エネルギーITS自動運転隊列走行システム	エネルギーITSプロジェクトでは、自動車からのCO ₂ 排出量削減、省エネルギーを目的としてトラックの自動運転隊列走行システムの技術開発を行った。走行デモンストレーションという手段によって、こうした技術の進展度と近い将来の走行システムの姿を具体的な形で提示する。
広島における世界初の路面電車 - 自動車間通信ASVデモ	車車間通信車載器を装備した広島市内の一般道を走行する広島電鉄車両とマツダ乗用車間による『接近情報通知サービス』を体験する。また、体験の前後で、マツダミュージアムと2つの世界遺産(厳島神社、原爆ドーム)を見学する。